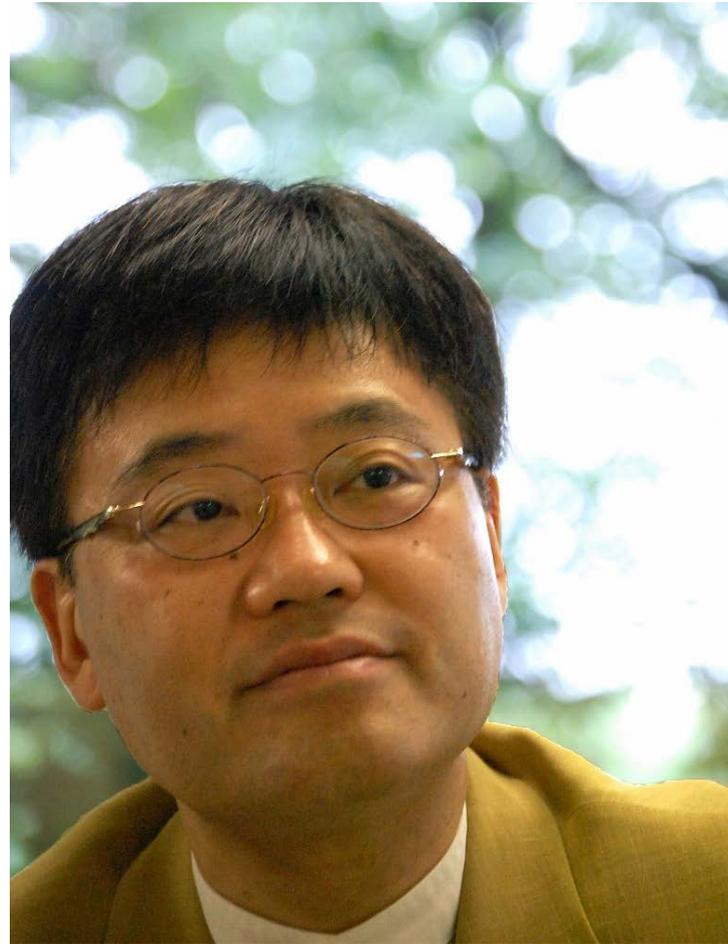
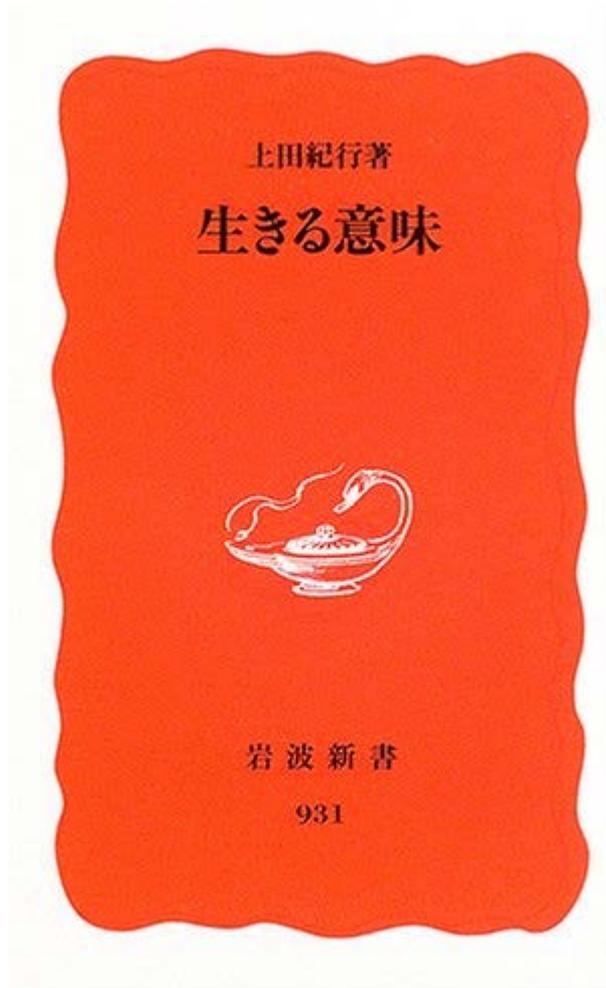


越境する宗教とその可能性

かけがえのなさ と 互換性：
何のために生きているのか

鈴木繁夫（名古屋大学・名誉教授）
2016年前期
名古屋学院大学：国際文化交流特論

生きる意味



第三の敗戦

C H A N N E L K O U S A K U S H A



CKK

文化人類学

1. ある社会での、人間の生活の仕方、慣習、物の考え方を観察し、記述する。
2. 観察された事柄に共通している因子(潜在因子)を探し出す。
3. 潜在因子に基づいて、異なった社会の間での比較を行い、なぜ違いがあるのか、あるいはなぜ同じなのかを考える。

現在：第三の敗戦

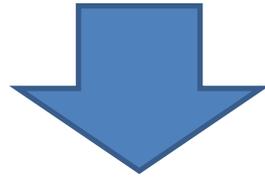
敗戦	堺屋太一	上田紀行
第一	明治維新 1868年	太平洋戦争： 国家として米国に負ける
第二	太平洋戦争 1945年	バブル崩壊： 経済で米国に負ける
第三	バブル崩壊 1993年	東日本大震災：2011年 心の荒廃

小泉構造改革

- 小泉純一郎 総理 2001-2005年
- 構造改革
 - 日本はグローバル化社会に対応する必要
 - 企業を守る規制をゆるくする(産業参入障壁の緩和)
-

使い捨てにされることの覚悟

- 「政治家ってというのは、常に使い捨てされるということを覚悟しなければいけない。使い捨てにされるっていうことを嫌がっちゃいけない。」(小泉純一郎)



- 信頼・安心の崩壊(自殺者3万人)

原発事故？

● 利他心 > 利己心

無事故なら貢献

将来への負債



個人

なぜ利己心が勝るのか？

1. 未来の不確定性 > 現在の確実性
2. 集団の意志 > 個人の意志
3. 思慮深さ = 精神的負担
4. 想像力の貧困 = 直近の欲望満足
5. 消費社会への慣れ > LOHASの面倒